

田原本町 公共交通に関するアンケート調査  
【クロス集計②年代別など】

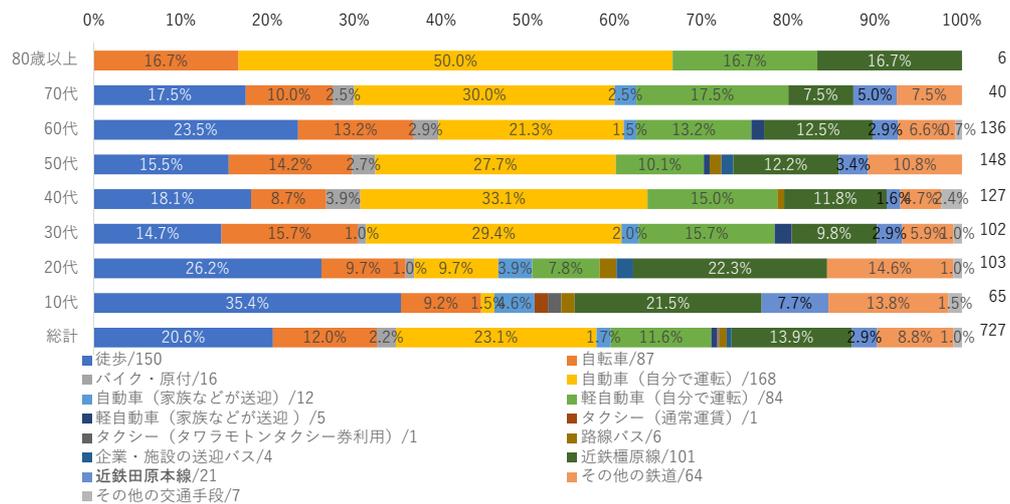


図1 (イ) 通勤・通学時における交通手段（年代別集計、複数回答）

- ・通勤・通学全体としては、自動車利用が占める割合が大きい。
- ・送迎利用は10～20代と60代以降で見られるが、全体としては1.7%とそれほど高いとは言えない。
- ・タクシー利用は単価が高いことなどや、タワラモトンタクシー券を利用したとしても、枚数が限定されていることから、通勤通学での利用はほとんど見られない。

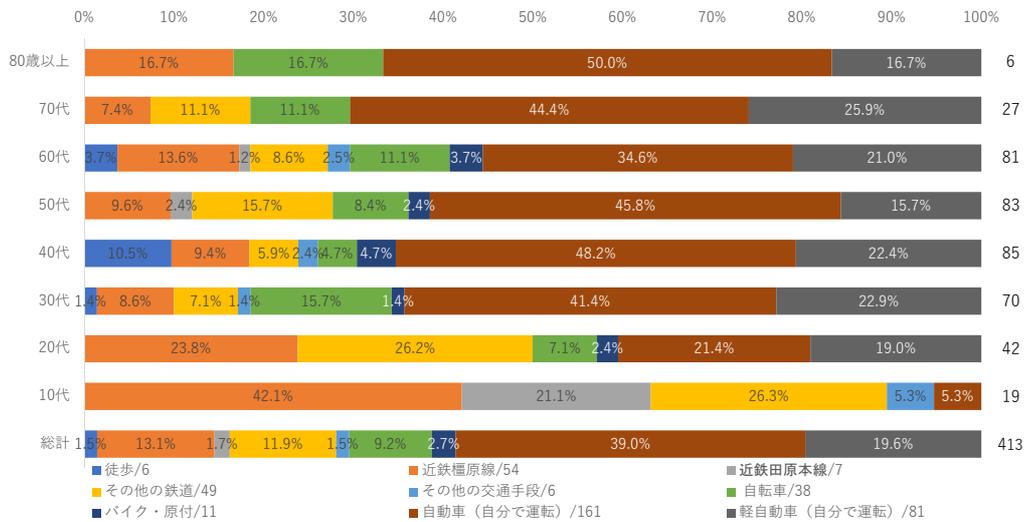


図2 (イ) 通勤・通学時における代表交通手段 (年代別集計)

- ・10~20代は免許非保有者が多いことや町外への通学などで、鉄道の利用率が高い。
- ・30~40代は自動車の利用率が高まるが、50~60代にかけては鉄道の利用率が再び高まる。
- ・通勤通学の代表交通手段となると送迎利用がなくなることから、鉄道など他の交通手段と組み合わせで利用されている。

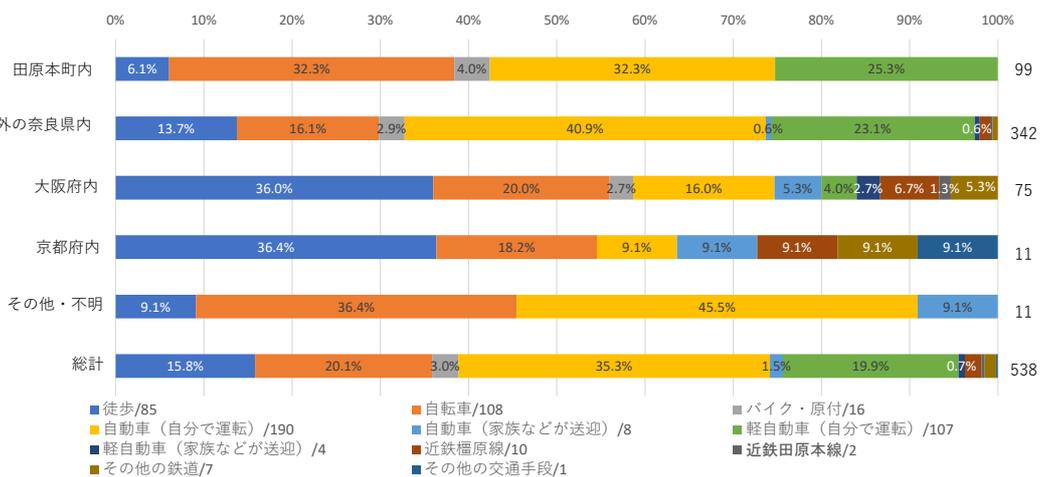


図3 (ア・イ) 通勤・通学時における交通手段 (通勤通学先別集計、複数回答)

- ・大阪府内・京都府内への通勤通学は鉄道+徒歩・自転車の組み合わせでの移動が多いが、田原本町内・奈良県内については自動車利用率が高い。
- ・前述した通り、送迎は他の交通手段と組み合わせで用いられているため、田原本町内で完結する通勤通学では利用されていない。

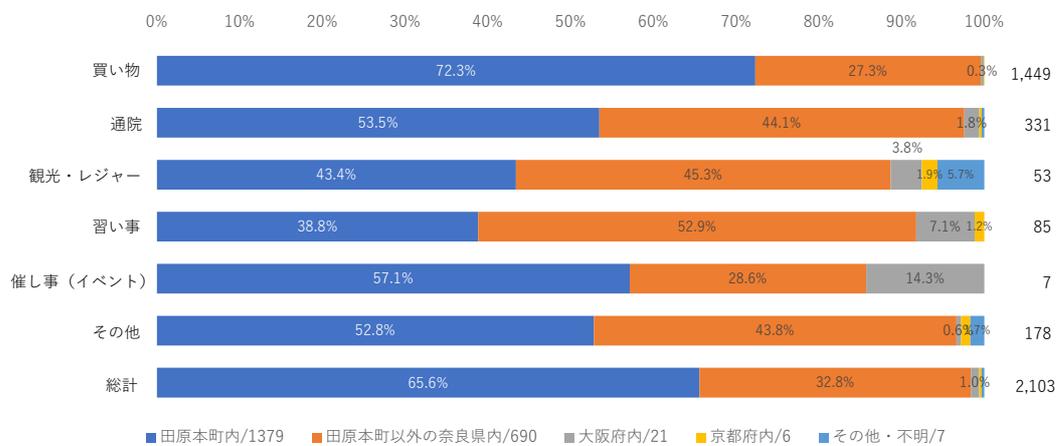


図4 (コ・サ) 【第1～第3頻度】お出かけ目的 (行先市町村別、複数回答)

- ・ 買い物・通院など必要性の高いお出かけについては、田原本町内で行われる一方で、余暇性の高いお出かけについては、町外の比率が高まる。
- ・ 県外への通勤通学が図3の件数では約16%を占めているが、お出かけについては、奈良県内で完結する場合が多い。

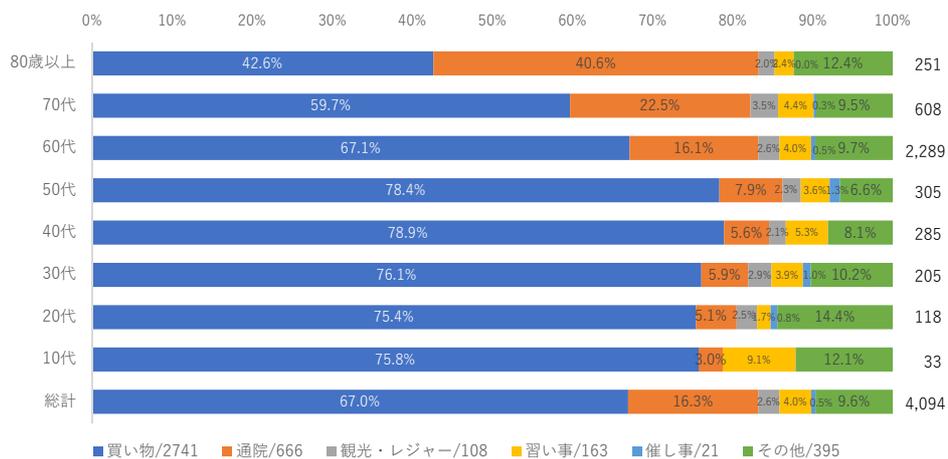


図5 (サ) 【第1～第3頻度】お出かけ目的 (年代別集計、複数回答)

- ・ 60代以降、高齢になるに従って、通院の占める割合が拡大する。
- ・ 教育を受ける世代である10代の習い事での利用が、他の世代と比較すると多い。

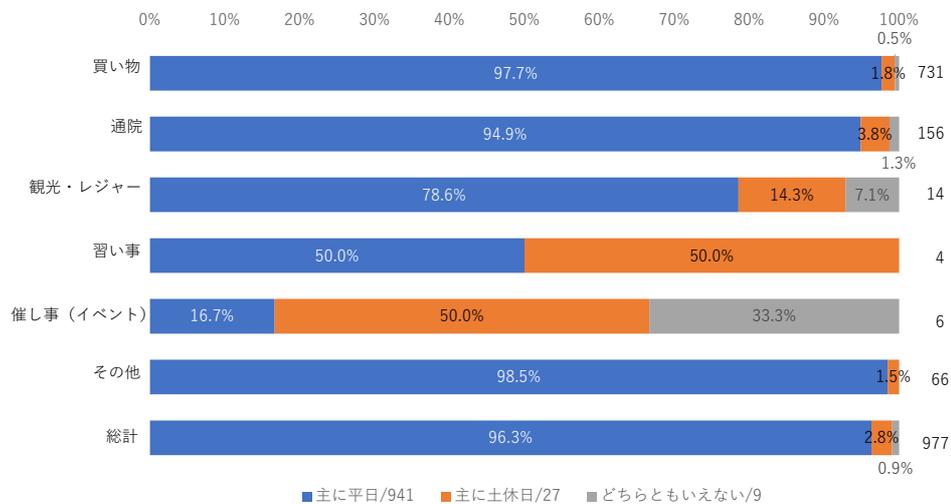


図6 (サ・ス) 【第1～第3頻度】お出かけ目的 (曜日別、複数回答)

・ 買い物・通院など、日常的なお出かけは平日に行われることが多い。

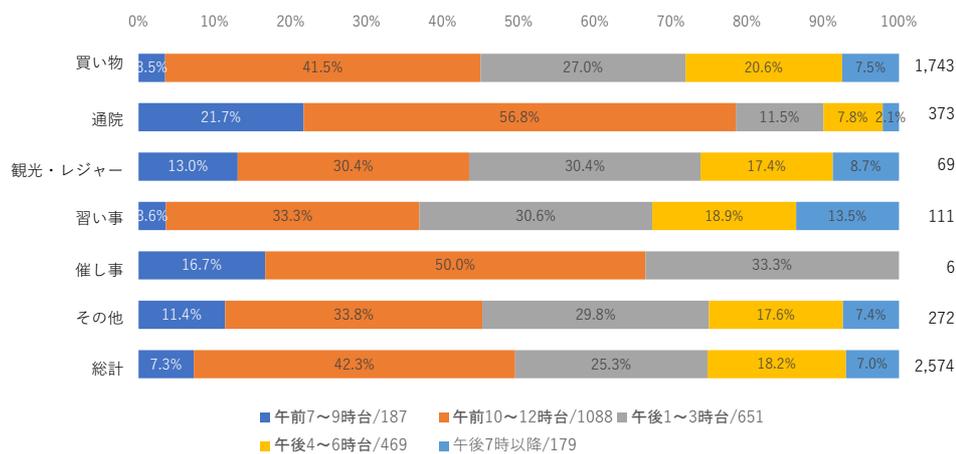


図7 (サ・セ) 【第1～第3頻度】お出かけ目的 (時間帯別、複数回答)

・ 通院は、特に診療開始時間などの関係上、午前中にお出かけを行う比率が高い。  
 ・ 夜間 (午後7時以降) の外出は他の時間帯と比較して、かなり少ない。

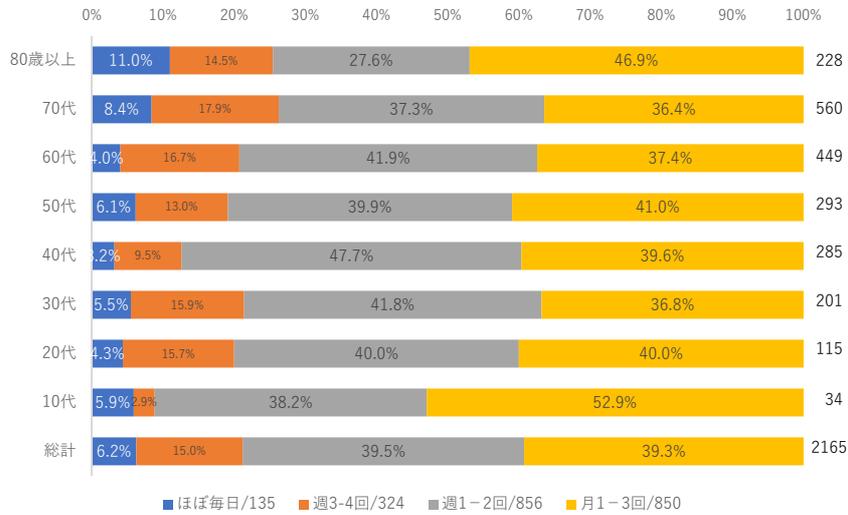


図8 (シ) 【第1～第3頻度】お出かけ頻度（年代別集計）

・お出かけ頻度が60代から増加する。退職などによる自由時間の増加や通院機会の増加がその要因と考えられる。

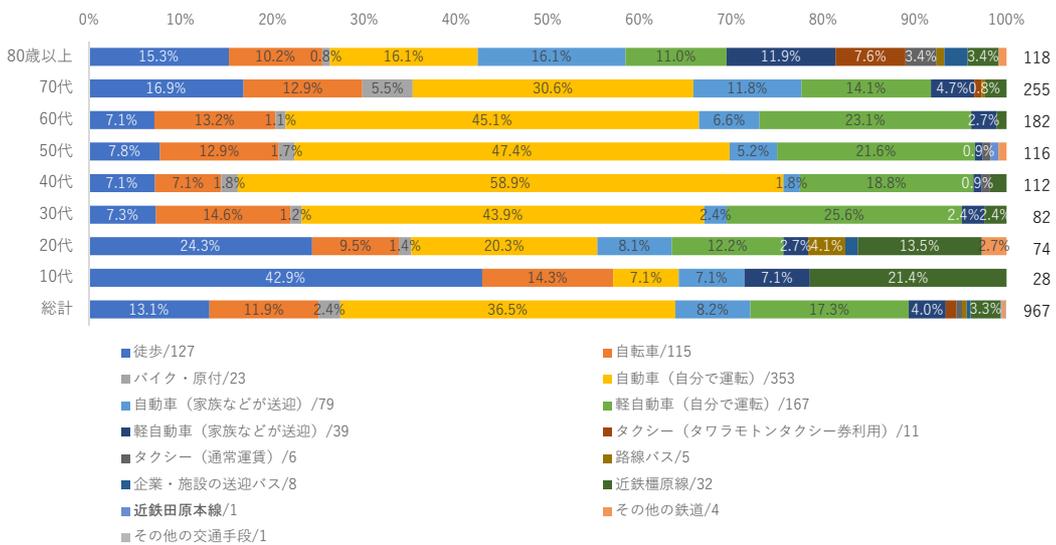


図9 (ソ) 【第1～第3頻度】お出かけ時における交通手段（年代別集計、複数回答）

・通勤と比較すると、近距離の移動が多いため、鉄道の利用率が低く、自動車・自転車利用率や徒歩の比率が高い。  
 ・送迎については全体でも1割（118件）、80代以上では3割弱を占め、特に10代と高齢者層でその割合が高い。  
 ・タクシーの利用（タワラモトンタクシー券、通常利用合わせて）は、全体としてはわずか（17件）である。

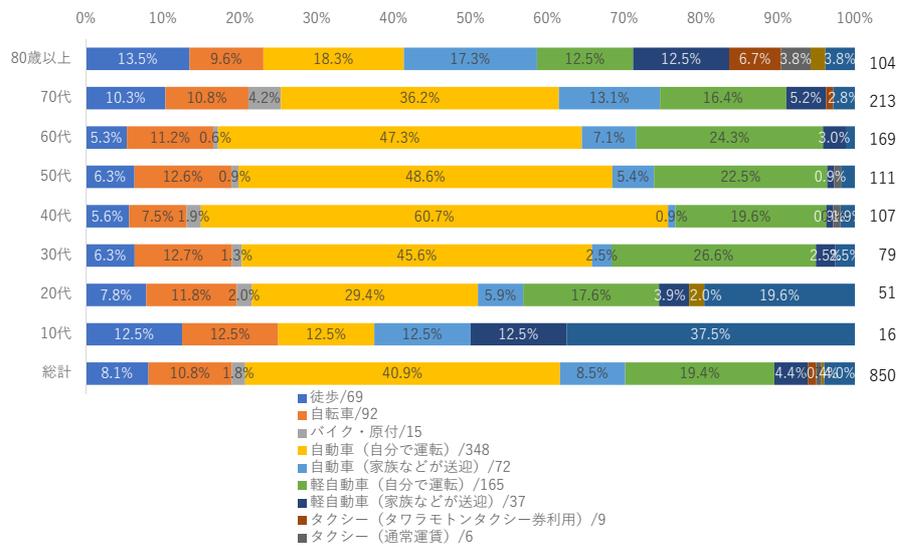


図10 (ソ) 【第1～第3頻度】お出かけ時における代表交通手段（年代別集計、複数回答）

- ・通勤通学と比較して、目的地までの距離が近距離であることが多いことから、全体でも送迎単独での利用が約13%（109件）を占め、80歳以上では3割弱を占める。
- ・一方、タクシー利用については、極めて少ない（全体で15件）。

11

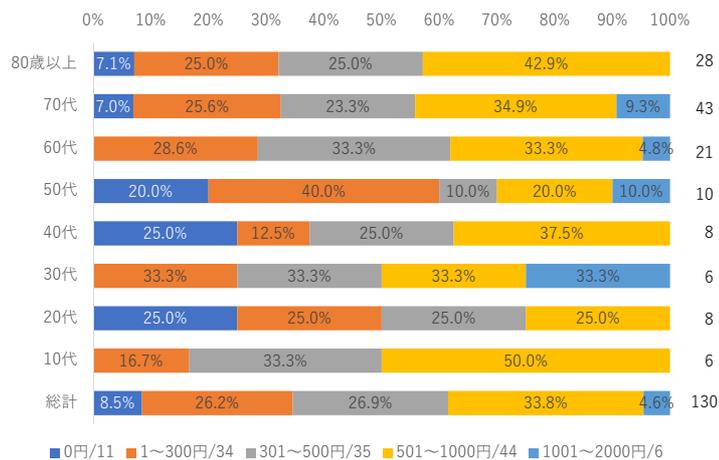


図11 (テ) 一回当たりの送迎代替負担額（年代別）

- ・全体では、301～500円での負担額の回答が多くみられる。
- ・50代以降で1,000円以上の高額負担の回答も散見される。

12

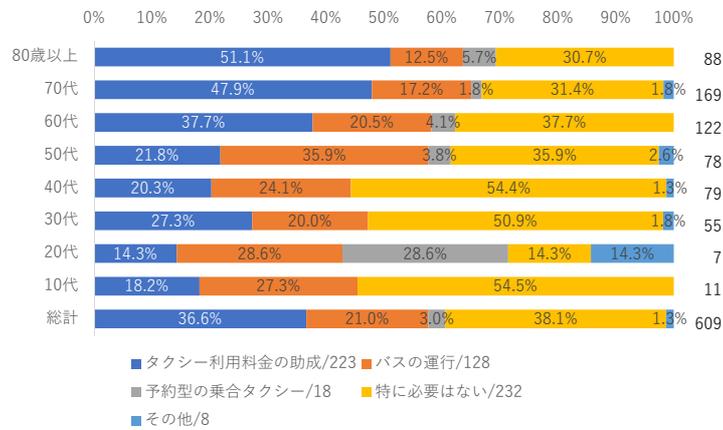


図12（ト）必要施策（年代別）

・50代以降で、何らかの施策を必要とする回答が増える。  
特に60代以降では、現状、町として取り組んでいる交通関係の施策が「タクシー利用料金の助成」のみであることもあり、「タクシー利用料金の助成」を求める回答が多い。

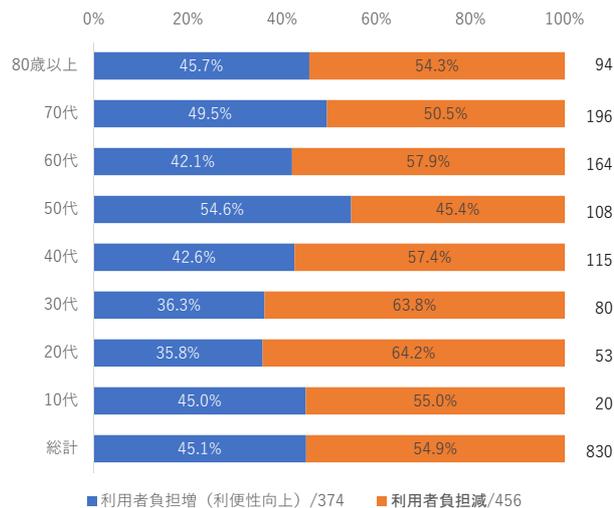


図13（ミ）利用者負担意向（年代別）

・50代以外では、利用者負担の増加を伴う利便性向上よりも、利用者負担の減少を求める回答の方が多い。

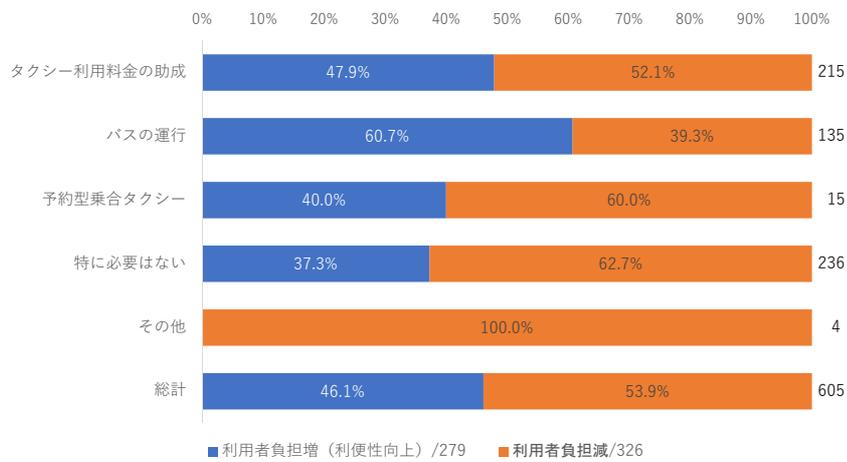


図14 (ト・ミ) 利用者負担意向 (希望施策別)

- ・ 施策別でみると、バス運行については、現状町内では提供されていないサービスであることもあり、利用負担が増えても、利便性向上を求める回答が上回っている。
- ・ それ以外の施策では、利用者負担の減少を求める回答が上回っている。